



白亜の会



～令和の日本型学校教育の構築とは？
今、求められている授業とは？～

青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会 会長 山口 菜穂子
2024年4月27日（土）



指導要領改訂の背景

学習指導要領解説 総則編 第1章 総説

1 改訂の経緯及び基本方針

(1) 改訂の経緯



- 今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

チャットGTP?

- こうした変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化を挙げることができる。人工知能が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。このことは同時に、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっている。

学習指導要領解説 総則編 第1章 総説

1 改訂の経緯及び基本方針 (1) 改訂の経緯その2

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このことは、本来、我が国の学校教育が大切にしてきたことであるものの、教師の世代交代が進むと同時に、学校内における教師の世代間のバランスが変化し、教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかが課題となり、また、子供たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきている。

↓

「中央教育審議会」に諮問。審議し、答申（基本方針）

↓

学習指導要領 改訂 H29.3告示





「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的
な学びの実現～

令和3年1月26日 中央教育審議会答申



学習指導要領の趣旨の実現に向けた
個別最適な学びと協働的な学びの一体化な充実に関する参考資料

令和3年3月版 文部科学省初等中等教育局教育課程課



一人一人の子供を主語にする学校教育の実現
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

令和4年2月16日発行 多摩教育事務所所報「たまじむ」第85号



中教審答申

R3.1.26



R3.4.22更新

(総論解説)

R3.3.30追加掲載

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申）

令和3年1月26日

中央教育審議会

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

令和3年1月26日
中央教育審議会

第I部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる可以保证の居場所・セーフティネット）

課題

子どもたちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子どもたちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念
（自立・協働・創造）の継承

学校における
働き方改革の推進

GIGAスクール構想の
実現

新学習指導要領の
着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【新しい動き】



新学習指導要領の着実な実施



学校における働き方改革

GIGAスクール構想

【成果】

国際的にトップクラスの学力

学力の地域差の縮小

規範意識・道徳心の高さ

【今日の学校教育が直面している課題】

子供たちの多様化

生徒の学習意欲の低下

教師の長時間労働

情報化への対応の遅れ

少子化・人口減少の影響

感染症への対応

「正解主義」や「同調圧力」への
偏りからの脱却



一人一人の子供を主語にする
学校教育の実現

「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる/
新しい時代の学校教育の実現

Society5.0時代とは？ 内閣府

Society 5.0とは

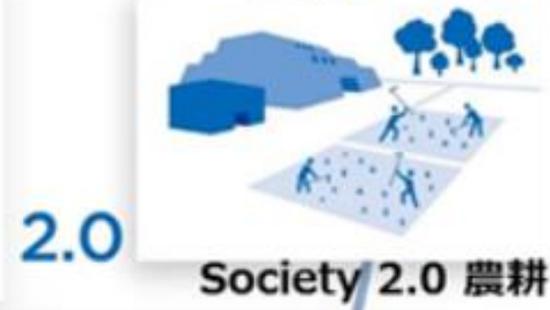
我が国が目指すべき未来社会の姿であり、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新たな社会です。第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定)において、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」としてSociety 5.0が初めて提唱されました。第5期科学技術基本計画で提示した Society 5.0の概念を具体化し、現実のものとするために、令和3年3月26日に閣議決定された第6期科学技術・イノベーション基本計画では、我が国が目指すべきSociety 5.0の未来社会像を「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」と表現しています。

新たな社会 "Society 5.0"

5.0

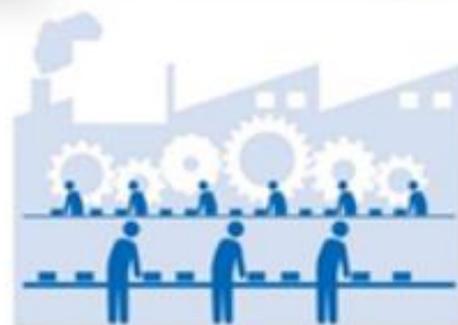


1.0
Society 1.0 狩猟



2.0

Society 2.0 農耕



Society 3.0 工業

3.0

4.0



Society 4.0 情報

[内閣府作成]



これまでの社会
知識・情報の共有、連携が不十分

IoTで全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会

これまでの社会
地域の課題や高齢者のニーズなどに十分対応できない

イノベーションにより、様々なニーズに対応できる社会

Society 5.0

AIにより、必要な情報が必要な時に提供される社会

これまでの社会
必要な情報の探索・分析が負担
リテラシー（活用能力）が必要

ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性がひろがる社会

これまでの社会
年齢や障害などによる、労働や行動範囲の制約

●教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進について



教育DXの推進においては、

1教育データの意味や定義を揃える「標準化」(ルール)

2基盤的ツール(MEXCBT、EduSurvey)の整備(ツール)

3教育データの分析・利活用の推進や、教育データ利活用にあたり自治体等が留意すべき点の整理(利活用)の三本柱で取組を進めています。詳細は、下記に記載のリンクをご参照ください。

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育 「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



子供の学び

- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
- ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている

#個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



子供の学びや 教職員を支える環境

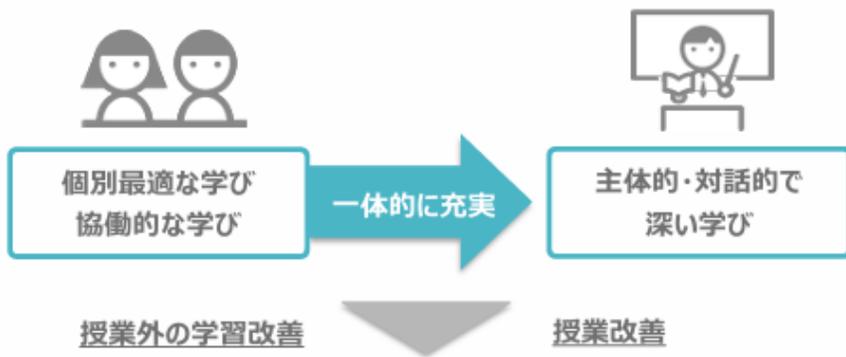
- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
- ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
- ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている

#ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



「子供の資質・能力の育成」

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

「子供が自己調整しながら学習を進めていく」

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
 - ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う
- 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める



学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
 - ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う
- 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる



協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
 - ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する
- 異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す



各学校段階において目指す学びの姿

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等による、質の高い教育が提供されている
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれている
- 多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びが行われている
- 探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びが提供されている

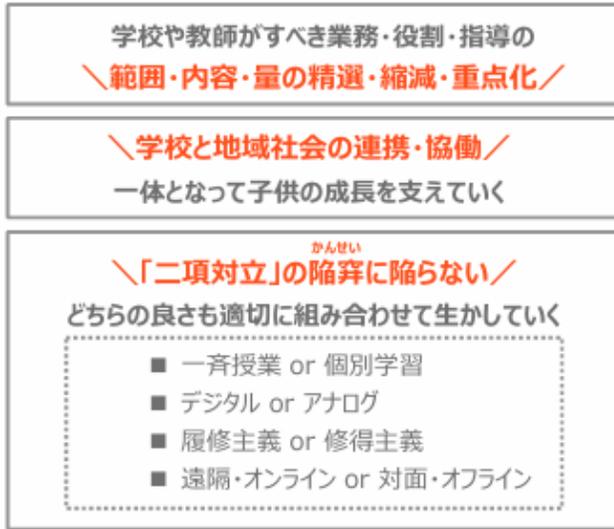
義務教育

- 基礎的・基本的な知識・技能や学習の基盤となる資質・能力等の確実な育成が行われるとともに、多様な一人一人の興味・関心等に応じた学びが提供されている
- 児童生徒同士の学び合いや探究的な学びなどを通じ、地域の構成員や主権者としての意識が育まれている
- 全ての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる

特別支援教育

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境整備
- 障害のある子供とない子供が可能な限りともに教育を受けられる条件整備
- 障害のある子供の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場の充実・整備

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性



全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて

改革に向けた6つの方向性

- (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、**教育の機会均等**を実現する
- (2) 連携・分担による**学校マネジメント**を実現する
- (3) **これまでの実践とICTとの最適な組合せ**を実現する
- (4) **履修主義・修得主義等**を適切に組み合わせる
- (5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて**学びを保障する**
- (6) 社会構造の変化の中で、**持続的で魅力ある学校教育**を実現する

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

【基本的な考え方】

- ✓ **学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの**
- ✓ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせていく**

＼**Society5.0時代にふさわしい学校の実現**／

- ▶ 学校教育の様々な課題を解決し、教育の質向上につなげる
- ▶ PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う
- ▶ ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- ICTを**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**に生かすとともに、**今までできなかった学習活動の実施**や**家庭など学校外での学びを充実**する
- 特別な支援が必要な児童生徒への**きめ細かな支援**や、個々の才能を伸ばす**高度な学びの機会の提供**など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う

#端末の日常的な活用 #ICTは「文房具」

#ICTの活用と少人数学級を両輪としたきめ細かな指導

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 教員養成・研修全体を通じ、**教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現**する
- 教員養成大学・学部は**新たな時代に対応した教員養成モデルの構築**や、**不断の授業改善に取り組む教師のネットワークの中核**としての役割を果たす

#ICT活用指導力の養成 #データリテラシーの向上

#指導ノウハウの収集・分析

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される端末は、**クラウドにアクセスし、各種サービスを活用**することを前提
- 各学校段階（小・中・高）における**1人1台端末環境の実現**と、**端末の家庭への持ち帰り**が望まれる

#デジタル教科書・教材の普及促進

#教育データの利活用 #ICT人材の確保

#校務効率化



10秒でできる
Webアンケートはこちら

一人一人の子供を主語にする学校教育の実現 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～



この特集全体の
詳しい内容はこちら

これからの学校は、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、教育の質の向上につなげることが必要とされています。本特集では、全ての子供たちの可能性を引き出し、一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と、一人一人の子供を主語にする学びの姿を紹介します。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

一人一人の子供を主語にする学びの姿 (例)

Q 「個別最適な学び」とは、どのような概念ですか。

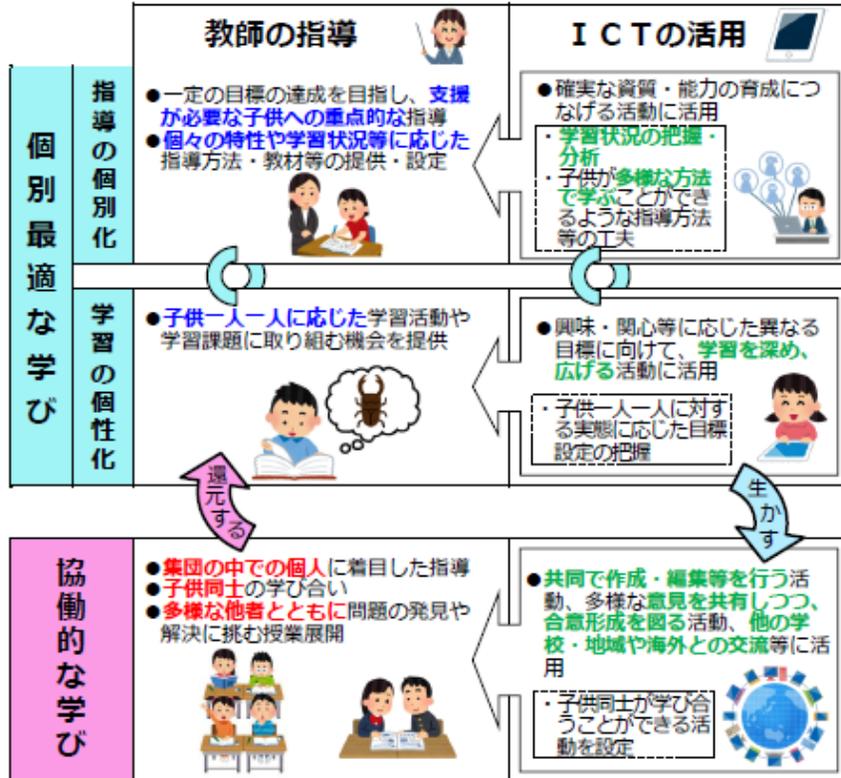
A 「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」です。

Q 「協働的な学び」では、どのような資質・能力を育成しますか。

A 探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることのできるような資質・能力を育成することです。

Q 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実とはどのようなことですか。

A 授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元することなどです。



中学校 第2学年 数学「一次関数」

指導の個別化

○導入

- 前時の学習内容の理解度に応じて、課題を選択 (AIDドリル、ノート、デジタル教科書を使用した個別学習等) し、問題を解く。

協働的な学び

○展開

- 本時の課題に対して、グループでファイル共有機能を用いて、表、式、グラフによる自身の解法と友達との解法の共通点や相違点に着目して、特徴について考察する。
- グループ内で議論した後、別グループの他の解法について共有する。
- ファイル共有機能を用いて、学級全体に向けて整理した自身の考えを発表する。

学習の個性化

○まとめ

- 本時の学習内容の理解度に応じて、自身の学習の進め方を選択する。
- ① 類題を選択し、問題を解く。
- ② 検索機能を用いて、興味・関心等に応じた事象から学習課題を設定し課題に取り組む。

全ての子供たちの可能性を引き出し、一人一人の子供を主語にする学校教育の実現

参考文献 ① 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (第9号) (令和3年1月26日 中央教育審議会) ② 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (令和3年3月版 文部科学省初等中等教育局教育課程課) ③ GIGAスクール構想の実現へ (令和2年6月 文部科学省) ④ 小学校及び中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総則編 (平成29年7月 文部科学省) ⑤ 学習者用デジタル教科書実践事例集 2021年追加版 (2021年3月追加 文部科学省)

N | t s

独立行政法人教職員支援機構

現在地点: top > 動画教材 > 校内研修シリーズ > 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して : 校内研修シリーズ No.94

掲載日: 令和3年4月15日 **校内研修シリーズ**

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して : 校内研修シリーズ No.94

× ポスト

シェアする

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して (中央教育審議会 荒瀬 克己)

校内研修シリーズ

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

中央教育審議会
第10期初等中等教育分科会長
荒瀬 克己

後で見る 共有

見る YouTube

現在位置

[トップ](#) > [政策・審議会](#) > [審議会情報](#) > [中央教育審議会](#) > 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中教審第228号)【令和3年4月22日更新】

- ▶ [文部科学省](#) > [政策・審議会](#) > [審議会情報](#) > [中央教育審議会](#) > 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 令和3年4月22日追加掲載